

四天王寺女短大 今津 玲子

四天王寺舞楽衣裳の色彩については、平舞装束の半臂の配色構成並びに色名と染料等につき昨年度総会、並びに関西支部会で発表した。今回は、前回と同じく慶長年間に新調された平舞装束の下襲(左方)の色彩構成について発表したい。

資料の下襲は、地紋のある白綾の表地に、袖と裾に二重菱の文様が染められ、菱の中側に桐、竹、唐草が、外側には、松喰い鶴が刺繡され、領と袖端には赤綾が付されている。

調査条件は、視感比色法により、色の表示は修正マンセルによって表示した。

下襲(左方)に用いられている色彩は約 21 色である。配色構成は、二重菱の文様は、赤紫色の濃淡でグラデーションの効果を出し、桐、竹、唐草の文様は、主として暖色系の色彩で、時に寒色系のものが変化を添えている。また、松喰い鶴の文様は、マンセル色相環上  $60^{\circ} \sim 180^{\circ}$  の三色ないし四色配色のものがあ、それに対し補色並びに準補色の色彩が清涼感を与えている。

即ち、下襲(左方)の色彩は、全体的には主として暖色系であり、それに、補色、準補色等の色彩が適当に加味された、類似の配色構成といえよう。